

書籍紹介

[トップページ](#) [書籍一覧](#)

[原発ゼロ社会への道 「無責任と不可視の構造」をこえて公正で開かれた社会へ](#)

インプレスR&D

原発ゼロ社会への道 「無責任と不可視の構造」をこえて公正で開かれた社会へ

著者：原子力市民委員会

福島原発事故からの復興、脱原発・エネルギー政策転換のために必要な情報、視点、政策提言をまとめる



原子力市民委員会は、脱原発に向けた具体的政策を提言する市民シンクタンクとして2013年に設立され、原発やエネルギーに関連するさまざまな問題の調査と情報発信、そして議論の場作りを目指しています。

原子力市民委員会は各種レポートを発行していますが、特に「原発ゼロ社会への道」シリーズ（これまで2014年と2017年に発行）は、その

[続きを読む](#)

電子版 ¥1,500 小売希望価格（税別）

印刷版 ¥1,800 小売希望価格（税別）

Like Share ツイート

好きな販売サイトにてご購入いただけます

電子書籍版



紀伊國屋書店



印刷書籍版

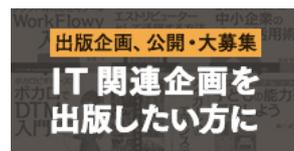


基本情報

発行日：2022/08/26

発行社：インプレスR&D

- > [書籍一覧](#)
- > [販売ストア](#)
- > [インプレスR&D出版ブランド](#)
- > [著者・編集者の方へ](#)
- > [スタッフ紹介](#)



検索 Search



出版ブランド

- [近代科学社Digital](#) (44)
- [インプレスR&D](#) (657)
- [good.book](#) (132)

シリーズ

- [OnDeck Books](#) (60)
- [Future Coders](#) (13)

『原発ゼロ社会への道
——「無責任と不可視の構造」をこえて
公正で開かれた社会へ』(2022)

- 序章 福島原発事故の教訓をふまえ、
原発ゼロ社会を拓く
- 第1章 原発事故被害と人間の復興
- 第2章 福島第一原発事故の現状と
虚構の廃炉ロードマップ
- 第3章 核廃棄物政策の変革
- 第4章 原発の安全確保に関わる技術と規制の課題
- 第5章 原発ゼロ社会実現の展望
- 終章 原発ゼロ社会をどのようにつくるのか

-
- * (pp.7~22) 「概要」
本篇と同じ構成で「主旨」をまとめたもの
 - * 脚注が非常に多い！
 - * 以前の報告書（2014, 2017, 特別レポートなど）
への参照指示が多い！
 - * まず「序章」、その後、どの章からでも読める！
-

目次

はじめに

概要 executive summary ← pp.7~22

序章 福島原発事故の教訓をふまえ、原発ゼロ社会を拓く

- 0.1 衰退する原子力発電
- 0.2 原子力発電の「無責任の構造」
- 0.3 原子力発電の「不可視の構造」
- 0.4 原発ゼロ社会を拓く

第1章 原発事故被害と人間の復興

- 1.1 原発事故被害の本質
- 1.2 土壌と生活環境の汚染
- 1.3 健康影響 ← 甲状腺がん多発の統計分析
- 1.4 教育と広報における人権侵害
- 1.5 市民の抵抗と活路

第2章 福島第一原発事故の現状と虚構の廃炉ロードマップ

- 2.1 福島第一原発事故の10年
- 2.2 ALPS処理汚染水への対処 ← 海洋放出しない
- 2.3 デブリの長期遮蔽管理方式への提言 ← デブリ取り出さない
- 2.4 廃炉・汚染水対策における責任体制を明らかにせよ

第3章 核廃棄物政策の変革

- 3.1 核廃棄物政策における無責任と不可視の構造
- 3.2 核廃棄物政策の変革に向けて
- 3.3 核燃料サイクル：全面的転換 ← 武力攻撃 (3.3.1.3)
- 3.4 通常運転由来の核廃棄物の管理・処分 ← 地層処分
- 3.5 原発事故で新たに発生した核廃棄物

第4章 原発の安全確保に関わる技術と規制の課題

- 4.1 3.11以降の原子力規制
- 4.2 原子力技術の本質的な不確かさと規制の実態
- 4.3 原発安全性の技術的な争点と新規基準の欠陥 ← 武力攻撃 (4.3.6.2)
- 4.4 原子力利用の可否を誰が決めるのか ← 小型炉

第5章 原発ゼロ社会実現の展望

- 5.1 福島原発事故以後のエネルギー基本計画
- 5.2 崩れた原子力発電の経済性
- 5.3 電力自由化と原発延命政策
- 5.4 原発ゼロを前提とした実効性のある気候変動対策 ← 脱炭素と原発
- 5.5 原発ゼロ社会におけるエネルギー利用
- 5.6 原発ゼロ社会実現の3段階と課題

終章 原発ゼロ社会をどのようにするのか

- 6.1 原発ゼロ社会に向けての現状 ← 武力攻撃 (6.1.1)
- 6.2 原発ゼロ社会移行期の課題と目標
- 6.3 原発ゼロ社会への道
- 6.4 終わりに ～ 原子力市民委員会の活動

執筆担当一覧



メールマガジンのお申し込み



NextPublishing facebook ページ

最新情報を配信しています。

目次

はじめに

概要 executive summary

序章 福島原発事故の教訓をふまえ、原発ゼロ社会を拓く

- 0.1 衰退する原子力発電
- 0.2 原子力発電の「無責任の構造」
- 0.3 原子力発電の「不可視の構造」
- 0.4 原発ゼロ社会を拓く

第1章 原発事故被害と人間の復興

- 1.1 原発事故被害の本質
- 1.2 土壌と生活環境の汚染 ← 食品基準の見直し問題 (1.2.2)
- 1.3 健康影響 ← 事故時の「緊急対応者」の健康フォローアップ (1.3.3)
- 1.4 教育と広報における人権侵害 ← 「原子力の安全神話」から「放射線の安全神話」への変質 (1.4.2)
- 1.5 市民の抵抗と活路

第2章 福島第一原発事故の現状と虚構の廃炉ロードマップ

- 2.1 福島第一原発事故の10年
- 2.2 ALPS処理汚染水への対処
- 2.3 デブリの長期遮蔽管理方式への提言 ← 「事故処理」が原発メーカーの「安定収入源」に (2.4)
- 2.4 廃炉・汚染水対策における責任体制を明らかにせよ

第3章 核廃棄物政策の変革

- 3.1 核廃棄物政策における無責任と不可視の構造
- 3.2 核廃棄物政策の変革に向けて
- 3.3 核燃料サイクル：全面的転換 ← L3廃棄物の敷地内埋設が意味すること (3.4.3)
- 3.4 通常運転由来の核廃棄物の管理・処分
- 3.5 原発事故で新たに発生した核廃棄物 ← 従来基準と事故後の基準のダブルスタンダード (3.5)

第4章 原発の安全確保に関わる技術と規制の課題

- 4.1 3.11以降の原子力規制
- 4.2 原子力技術の本質的な不確かさと規制の実態 ← 新規規制基準は「世界で最も厳しい基準」？ (4.3)
- 4.3 原発安全性の技術的な争点と新規規制基準の欠陥
- 4.4 原子力利用の可否を誰が決めるのか

第5章 原発ゼロ社会実現の展望

- 5.1 福島原発事故以後のエネルギー基本計画
- 5.2 崩れた原子力発電の経済性 ← 東電延命のための「多重防護」 (5.3.1)
- 5.3 電力自由化と原発延命政策
- 5.4 原発ゼロを前提とした実効性のある気候変動対策 ← 「グリーン成長戦略」の不確かさ (5.5.2)
- 5.5 原発ゼロ社会におけるエネルギー利用
- 5.6 原発ゼロ社会実現の3段階と課題

終章 原発ゼロ社会をどのようにつくるのか

- 6.1 原発ゼロ社会に向けての現状
- 6.2 原発ゼロ社会移行期の課題と目標
- 6.3 原発ゼロ社会への道
- 6.4 終わりに ～ 原子力市民委員会の活動

執筆担当一覧



メールマガジンのお申し込み



NextPublishing facebook ページ

最新情報を配信しています。

著者紹介

原子力市民委員会は、認定NPO法人「高木仁三郎市民科学基金」（www.takagifund.org）の特別事業として2013年4月に設立された非営利の市民シンクタンクである。市民からの寄付を財源としており、特定の政治団体や宗教団体からの助成は受けていない。2022年5月現在、座長をふくむ12名の委員、4つの部会（委員のほかに延べ35名の部会員）、33名のアドバイザー、事務局数名で構成される。

総勢約80名の構成員は、研究者、技術者、法律家、医師、経営者、NGO職員、原発事故被害者（避難者および被災地居住者を含む）などであり、その専門領域は、経済学、社会学、法学、会計学、経営学、行政学、歴史学、宗教学、神学、文化人類学、国際関係論、原子力工学、材料工学、物理学、地震学、分析化学、農学、医学、放射線医学、統計学、環境学、科学史、科学技術社会論など多岐にわたる。

部会構成、構成員の氏名、所属・肩書き等は原子力市民委員会ウェブサイト（www.ccnejapan.com）に掲載されている。



運営会社
お問い合わせ
プライバシーポリシー
本サイトのご利用について
プレスリリース
インプレスグループTop

© Impress R&D, an Impress Group Company.

